



さいたま市

令和5年度
さいたま市学習状況調査
正答例等

【社会】



令和6年2月
さいたま市教育委員会

目 次

正答例と特徴的な問題の解説

I 小学校 第5学年

- | | |
|----------------|---|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 2 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 3 |
| 3 正答例 | 4 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 5 |

II 小学校 第6学年

- | | |
|----------------|---|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 6 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 7 |
| 3 正答例 | 8 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 9 |

III 中・中等教育学校 第1学年

- | | |
|----------------|----|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 10 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 11 |
| 3 正答例 | 12 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 13 |

IV 中・中等教育学校 第2学年

- | | |
|----------------|----|
| 1 調査問題【出題の趣旨】 | 14 |
| 2 調査問題一覧表【設問別】 | 15 |
| 3 正答例 | 16 |
| 4 特徴的な問題と解説 | 17 |

正答例と

特徴的な問題の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校それぞれの内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらいを示しています。

3 正答例

問題を解く方法(考え方)やこれまでの学習のつながり等を児童生徒向けに提示しています。

4 特徴的な問題と解説

令和5年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

※本書では、調査名について、略称を用いている。

調査名	略称
平成〇年度 全国学力・学習状況調査	平成〇年度全国調査
平成〇年度 さいたま市学習状況調査 小〇算数	平成〇年度市調査【小〇】
平成〇年度 さいたま市学習状況調査 中〇数学	平成〇年度市調査【中〇】

なお、本書で記載している全国調査の正答率は、市の正答率を示している。

I 小学校 第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	1	本問題は、令和4年度市調査でも出題した「身に付けた知識を地図の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。今回は、八方位及び田や畑の地図記号を読み取る問題や、さいたま市の様子が登場や時期によって異なることを読み取る問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
県の様子	2	本問題は、令和4年度の市調査において課題がみられた「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」に関する問題である。今回は、さいたま市の人口について、グラフを適切に読み取って選択する問題と、埼玉県の花の種類の様子と人口が多い市を関連付けて考えられているかをみる問題を出題している。
火事や自然災害から守る	3	本問題は、「資料から的確な情報を読み取ること」に関する問題である。今回は、消防指令センターから関係機関に連絡する仕組みを表した図を基に、指令センターが警察署に連絡を行う目的を読み取る問題と、自然災害に対する備えを表した図を基に、自分たちを含めた地域の人々ができることを読み取る問題を出題している。
我が国の国土	4	本問題は、「世界における我が国の国土の位置」と、令和4年度市調査【小5】でも出題した、「日本の各地の気候の特色に関する問題」である。今回は、動画を参考にしながら、世界における日本の大まかな位置を選択できるかをみる問題と、日本の各地の気候の特徴を示す複数の雨温図を、正しく読み取ることができるかどうかをみる問題を出題している。
店の仕事 農業	5	本問題は、「社会的事象の目的や意味を読み取ること」と、「資料から必要な情報を読み取る技能」に関する問題である。「社会的事象の目的や意味を読み取ること」については、スーパーマーケットの人が消費者のどのような願いに応えようとしているのかを、動画を基に考える問題と、複数の資料を基に、これからの食料生産や食生活のための具体的な取組を選択できるかをみる問題を出題している。「資料から必要な情報を読み取る技能」については、複数のグラフを基に、短い時間の中で、同じ広さの土地でより多くの米をとれるようになったことを読み取れているかどうかをみる問題を出題している。 なお、(3)は令和4年度市調査【小5】において課題がみられた問題の類似問題である。
工業生産	6	本問題は、「資料から必要な情報を読み取ること」に関する問題である。今回は、日本の工業生産の様子の変化を読み取る問題と、優れた製品を生産するための工夫や努力を考えることができるかをみる問題を出題している。なお、課題の改善状況や定着率を把握するために、令和4年度と類似の問題を出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式 選 択 答 式 ・ 選 短	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的 環境と 人々の 生活	現代社会 の仕組み や働きと 人々の 生活	歴史と 人々の 生活	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に取り組 む態度		正 答 率 (%)	無 解 答 率 (%)	出 題 年 度 ・ 調 査 名 【 学 年 】	正 答 率 (%)	出 題 学 年	正 答 率 (%)
①	(1)	八方位（南東）を理解している。	○			○		選	79.7	0.3	R4市 【小5】 【小6】	64.0 62.4	小6	74.6
	(2)	田と畑の地図記号を理解している。	○			○		選	80.8	0.2			小6	79.9
	(3)	土地の高さの違いや地図記号から、市の地形の特色を読み取ることができる。	○				○	選	65.0	0.3			小6	68.9
	(4)	土地利用の変化に着目して、市の様子の変化を考えることができる。	○				○	選	88.8	0.4			小6	91.2
②	(1)	埼玉県のグラフから、さいたま市の人口の数値を正確に読み取ることができる。	○			○		選	78.6	0.2				
	(2)	埼玉県内の人口が多い地域と、地形との関わりを考えることができる。	○				○	選	63.5	0.3				
③	(1)	火事が発生した際に、警察署が消防署と連携して果たしている役割を資料から読み取ることができる。		○		○		選	91.5	0.2				
	(2)	自然災害に備えるために、自分たちや地域の人々ができることを資料から読み取ることができる。		○		○		選	67.4	0.3				
④	(1)	世界における我が国の国土の位置を理解している。	○			○		選	30.9	0.4				
	(2)	雨温図から、さいたま市と奄美市の気候の特色を読み取ることができる。	○			○		選	71.8	0.4	R4市 【小5】	79.8		
⑤	(1)	販売の仕事が、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう工夫が行われていることを考えることができる。		○			○	選	82.4	0.4				
	(2)	米づくりに関わる人々が、生産性を高めていることを読み取ることができる。		○		○		選	82.9	0.3				
	(3)	食料生産にたずさわる人々が、工夫や努力をしている様子を考えることができる。		○			○	選	75.7	0.4	R4市 【小5】	58.3		
⑥	(1)	日本の工業生産の概要をグラフから正しく読み取ることができる。		○		○		選	62.2	0.5	R4市 【小5】	61.4		
	(2)	貿易の輸送手段とその特徴を、正しく考えることができる。		○			○	選	86.8	0.5				
	(3)	消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産しようとする工夫や努力を考えることができる。		○			○	選	58.5	0.6				

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。

調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出题している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会 第5学年】

せつ問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等	
①	(1)	3	3年生の「わたしたちのまち さいたま市」では、学校のまわりは東・西・南・北の四方位によって様子がちがう場合があることを学習しました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の「あ」は「南」と「東」の間に当たるので、3の「南東」です。
	(2)	2	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地いきの様子を地図から読み取りやすくなります。IIは田、Vは畑なので、正答は2です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用してたしかめましょう。
	(3)	2	し料2にある地図記号と、「はん例」にある土地の高さとを見くらべて考えましょう。芝川の周りは、大宮駅の周りと同く比べると土地が低くなっており、田や畑が集まっています。大宮駅の周りには、郵便局や図書館などの人が集まる施設が集まっています。
	(4)	1	さいたま市の鉄道や道路のうつり変わり、土地の利用の変化を結び付けて考える問題です。今から約140年前と比べると、今から約50年前は鉄道や道路が広がって家や店が増えた一方で、田んぼや林はへったことが分かります。
②	(1)	3	埼玉県で人口の多い市について、グラフからじょうほうを正かくに読み取る問題です。さいたま市の部分を見ると、人口は「およそ130万人」であることが分かります。
	(2)	4	埼玉県の人口の多い市と、地形の特色を結び付けて考える問題です。し料2から、埼玉県には東側に低地や台地が広がっており、人口の多い市も集まっていることが分かります。
③	(1)	4	火事によるひ害をふせぐために、様々な機関が協力していることを考える問題です。し料1から、消ぼう指令センターが中心となって、火事によるひ害を最小げんにするために様々な機関に連らくを取っていることが分かります。けい察しよには、交通整理をお願いしていることが分かります。
	(2)	3	関係図をもとに、自然災がいにそなえるために自分たちでできることを考える問題です。し料2から、わたしたちも地いきの一員として、訓練に参加するなどの取組を通して、自然さい害にそなえることができることが分かります。
④	(1)	【1】あ 【2】あ 【3】う 【4】い	世界の中での日本の位置について考える問題です。日本は北半球にあり、ユーラシア大陸の東に位置しています。また、日本海やオホーツク海、太平洋などの海にかこまれています。地球上の位置としては、スペインとほぼ同じい度にあります。「い度」と「経度」のちがいに気を付けましょう。
	(2)	4	雨温図をもとに、さいたま市と奄美市の気温やこう水量をくらべる問題です。二つのグラフから、奄美市は1か月の平きん気温が10℃を下回ることではなく、さいたま市にくらべてあたたかい地域にあることが分かります。
⑤	(1)	1	スーパーマーケットで働く人の仕事について考える問題です。し料1から、スーパーマーケットの人は、お客さんがほしい品物をいつでも買うことができるように、商品の売れ行きに応じて品物を発注し、店頭にならべていることが分かります。
	(2)	【あ】1 【い】2	二つのグラフから、米の作業量の変化と、米づくりにかかる作業時間の変化を考える問題です。し料2から、10a当たりの米の生産量が増えていることが分かります。また、し料3から、米づくりにかかる作業時間が年々短くなっていることが分かります。
	(3)	3	食料生産にかかわる人々のくふうや努力について考える問題です。資料5のウから、魚の群れをさがすために機械（ソナー）も使用していることが分かるため、選たくし3はふさわしくないといえます。
⑥	(1)	4	1では、総生産がぐにしめるわり合は1935年にせんい工業が一番多くなっています。2では、工業生産がぐは時代によって大きく変化していることが分かります。3では、金属工業の割合は減少したが、生産額としては増加しています。以上から、正答は4となります。
	(2)	2	1のトラックは、出発地から目的地まで荷物を直せつ運ぶことができます。3の貨物用のこう空機は、小がたの荷物を短時間で運ぶことができます。4のコンテナ船は、一度に大量の荷物を運ぶことができ、ひ用をおさえることができます。
	(3)	1、4	2は、かんきょうに与えるえいきょうも考えて生産を行っています。3は、産業用ロボットだけでなく、手作業で行う作業もあります。以上から、正答は1、4となります。

4 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 社会 地理的環境と人々の生活

【特徴的な問題】

(1) 【動画問題】 世界の中での日本の位置について、次の動画を参考にして、
□【1】□ ~ □【4】□ に入る言葉をそれぞれ下のあ~うの中から一つずつ選びましょう。(※動画に音声はありません。)

日本は □【1】□ にあり、□【2】□ のすぐ東に位置しています。日本海やオホーツク海、□【3】□ などに^{かこ}囲まれています。また、スペインと同じ □【4】□ にあり、オーストラリアと同じ^{けいど}経度にあります。

出題の趣旨

本問題は、令和4年度市調査【小5】でも出題した、「大陸の名称や世界における日本の位置」に関する問題である。平成29年度より、課題の改善状況を捉えるために継続して出題している。今回は、デジタルの優位性を生かして、児童が問題文だけでなく動画も参考にして答えを導くことのできる設問としている。

指導のポイント

本問題では、小学校学習指導要領社会第5学年の内容(1)に基づき、我が国の国土の位置について、地図帳や地球儀などの各種の資料で調べ、まとめる学習活動を意識している。特に、地球儀については、小学校学習指導要領解説社会編に「平面地図に比べて、大陸や海洋、主要国の面積や相互の位置関係をより正確に捉えることができる」という特徴があり、「第5学年の始めには、地球儀に触れる活動を通して、少しずつ使い方に慣れ、こうした特徴を実感できるようにすることが大切である」とされている。そのため、本問題を参考に、名称、位置、方位、距離等の基本的な情報を読み取れるようにする。

○世界の大陸と主な海洋に着目させる。

- 日本からの方位や位置関係を正しく読み取れるように、主な大陸や海洋の名称を付箋等で貼る。

○緯度、経度などによる位置の表し方について扱う。

- 緯度や経度を視覚的に捉えられるように、紙テープを貼り、日本と世界の国々との位置関係を調べる。



日々の授業改善のポイント

地球儀を活用する場面としては、世界の大陸や主な海洋、主要国の位置などを確かめる、それらと我が国との位置関係を方位を使って調べる、主要国の位置や経度を用いて言い表したり、面積の大小や日本からの距離の違いを大まかに比べたりするなど、様々なものが考えられる。

第5学年の始めだけでなく、第5学年や第6学年を通して様々な場面で児童が自ら活用できるように、技能を育むことが大切である。

II 小学校 第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

身近な地域や市	1	本問題は、令和4年度市調査でも出題した「身に付けた知識を地図の情報と関連付けて活用すること」に関する問題である。今回は、八方位及び田や畑の地図記号を読み取る問題や、さいたま市の様子が場所や時期によって異なることを読み取る問題を出題している。課題の改善状況や定着率を把握するために、小5と小6で同一の問題を出題している。
飲料水の確保	2	本問題は、「資料から必要な情報を的確に読み取ること」に関する問題である。今回は、飲料水の確保について、水源地から家庭や学校に供給されるまでの流路を適切に読み取っているかどうかをみる問題と、動画を基に、動画の撮影地点を見沼代用水の流路図から適切に選択できるかどうかをみる問題を出題している。
くらしと産業を変える情報通信技術	3	本問題は、「情報や情報通信技術を活用する産業」に関する問題である。本単元は、「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させることを理解できるようにすること」を目標としている。産業によって情報の活用の仕方が異なることを考える問題と、情報の利用者として大切だと思うことについて考える問題を出題している。
自然災害憲法と私たちの暮らし	4	本問題は、「我が国の自然災害」及び「日本国憲法と我が国の政治」に関する問題である。資料から我が国の自然災害の特色を読み取る問題と、我が国における政治の仕組みを読み取る問題、さらに、日本国憲法の基本的な考え方について適切に選択することができるかどうかをみる問題を出題している。
飛鳥時代から室町時代の主な文化	5	本問題は、「飛鳥時代から室町時代にかけての文化の様子を理解」に関する問題である。今回は、年表を手掛かりに、大和絵がさかんに描かれた時代と、その時代を代表する文化を選択する問題と、書院造の部屋の様子を手掛かりに、室町時代に広まった文化を選択する問題を出題している。
日本の国づくりと世界とのつながり	6	本問題は、様々な時代における我が国の国づくりと、世界とのつながりに関する問題である。今回は、8世紀ごろの日本と世界とのつながりや、正倉院の宝物などを手掛かりに、我が国が大陸文化を摂取してきたことを読み取る問題、年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉が戦国の世を統一した過程を考える問題、条約改正を手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを考える問題を出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式 選択式・短 答式・短	市		過去同一問題等		複数学年での出題		
		地理的 環境と人 々の生活	現代社 会の仕組 みや働き と人々の 生活	歴史と 人々の生 活	知識・ 技能	思考・ 判断・表 現	主体的 に学習に 取り組む 態度		正答率 (%)	無解 答率 (%)	出題年 度・調 査名【学 年】	正答率 (%)	出題 学年	正答率 (%)	
①	(1)	八方位（南東）を理解している。	○			○		選	74.6	0.1	R4市 【小5】 【小6】	64.0 62.4		小5	79.7
	(2)	田と畑の地図記号を理解している。	○			○		選	79.9	0.0				小5	80.8
	(3)	土地の高さの違いや地図記号から、市の地形の特色を読み取ることができる。	○				○	選	68.9	0.1				小5	65.0
	(4)	土地利用の変化に着目して、市の子の変化を考えることができる。	○				○	選	91.2	0.2				小5	88.8
②	(1)	飲料水が供給される仕組みを、資料から読み取ることができる。	○			○		選	61.8	0.1					
	(2)	地域の発展に尽くした先人の働きを読み取ることができる。	○			○		選	40.0	0.2					
③	(1)	大量の情報や情報通信技術がスーパーマーケットで活用されているよさを資料から考えることができる。		○			○	選	84.3	0.2	R4市 【小6】	82.6			
	(2)	情報を有効に活用することについて、情報の受け手の立場から考えることができる。		○			○	選	91.6	0.2					
④	(1)	国土の自然災害の状況について理解している。		○			○	選	93.3	0.1					
	(2)	法律がつくられるまでの過程から、国の政治の仕組みを読み取ることができる。		○			○	選	85.5	0.2					
	(3)	日本国憲法の基本的な考え方と国民生活を関連付けて、憲法の特色や役割を考えることができる。		○			○	選	85.9	0.1					
⑤	(1)	年表を手掛かりに、大和絵がさかんにえがかれた時代と、その時代を代表する文化を選択することができる。			○	○		選	53.0	0.3					
	(2)	書院造の部屋の様子を手掛かりに、室町時代に広まった文化を選択することができる。			○	○		選	65.1	0.3					
⑥	(1)	8世紀ごろの日本と世界のつながりなどを手掛かりに、我が国が大陸文化を摂取してきたことを読み取ることができる。			○	○		選	76.3	0.3					
	(2)	年表等を手掛かりに、織田信長や豊臣秀吉が戦国の世を統一した過程を考えることができる。			○	○		選	81.0	0.5					
	(3)	条約改正を達成する過程で、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを考えることができる。			○	○		選	53.3	1.0					

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査

なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【小学校社会 第6学年】

設問番号		正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
①	(1)	3	3年生の「わたしたちのまち さいたま市」では、学校のまわりは東・西・南・北の四方位によって様子がちがう場合があることを学習しました。四方位よりも細かく方位を表したものを、八方位といいます。問題中の「あ」は「南」と「東」の間に当たるので、3の「南東」です。
	(2)	2	地図記号とは、土地の様子や建物、交通の様子などを表したマークです。地図記号を使うと、地いきの様子を地図から読み取りやすくなります。 は田、∨ は畑なので、正答は2です。他にもどのような地図記号があるか、地図帳などを活用して確かめましょう。
	(3)	2	資料2にある地図記号と、「はんれい」にある土地の高さを見比べて考えましょう。芝川の周りは、大宮駅の周りとは比べると土地が低くなっており、田や畑が集まっています。一方の大宮駅の周りには、郵便局や図書館などの人が集まる施設が集まっています。
	(4)	1	さいたま市の鉄道や道路のうつり変わりと、土地の利用の変化を結び付けて考える問題です。今から約140年前と比べて、今から約50年前は鉄道や道路が広がって家や店が増えた一方で、田んぼや林は減ったことが分かります。
②	(1)	1	水がどのようにわたしたちのもとに届くのかを、資料から読み取る問題です。資料1から、埼玉県のとくじょう水場に取り入れている水は、埼玉県だけでなく群馬県からも流れているため、1はふさわしくないといえます。
	(2)	①	見沼代用水の流路について、資料から考える問題です。映像と説明により、見沼代用水が川から水を取り入れている場所だと分かります。
③	(1)	3	スーパーマーケットでの情報の利用について、資料から読み取る問題です。資料1から、スーパーマーケットでは商品の売れ行きなどのデータを活用して商品を発注し、売れ残りも売り切れも起きないようにしていることが分かります。
	(2)	2	複数の資料をもとに、情報社会を生きる上で大切なことについて考える問題です。資料3から、「ソーシャルメディア」上ではいいかげんなうその情報も広がりやすいことから、様々な情報と見比べて、正しい情報がどうかを確かめることが重要であると分かります。
④	(1)	2	全国各地で様々な国土の自然条件と関連し、自然災害が発生していることを理解しているかを問う問題です。資料1から、日本では国土の広いはん囲にわたって、大きな地しんが起きたことが分かります。
	(2)	4	国の法りつがができる過程や、国会のしゅう議院と参議院のちがいについて考える問題です。資料2から、法りつができるまでにはしゅう議院と参議院とで何度も話し合いを行い、しん重に決めていることが分かります。
	(3)	1	(あ)では、日本国けん法の基本的な考え方について、(い)では、国民の意見と政治がどのように関連しているかについて当てはまる言葉を考える問題です。(あ)には「国民主権」が、(い)には「意見」が当てはまります。
⑤	(1)	4	大和絵がさかんにえがかれた時代と、同じ時代の文化を選ぶ問題です。大和絵は平安時代にさかんにえがかれるようになり、同じ時代にはひらがなやかたかななど、日本独自の文化が生まれました。
	(2)	1	今も残っている文化の中で、室町時代に広まったものを選ぶ問題です。室町時代には、現在の和室につながる書院造の部屋で、生け花や茶の湯がさかんに行われました。
⑥	(1)	2	8世紀ごろの日本や世界とのつながりについて考える問題です。資料1～3から、日本は外国と人や物の行き来があったことが分かります。
	(2)	1	織田信長や豊田秀吉の行ったことから、戦国の世が統一されたことを理解しているかを問う問題です。織田信長は、多くの鉄ぼう（てっぽう）を使って領地を広げました。また、豊田秀吉は検地や刀がりをを行い、全国を統一しました。
	(3)	4	明治時代の国づくりについて考える問題です。日本は外国に負けない国づくりをするため、ちよう兵令を出して西洋式の軍隊をつくりました。また、日清戦争や日露戦争で中国（清）やロシアと戦う中で、勢力を広げていきました。

4 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 社会 歴史と人々の生活

【特徴的な問題】

- (3) 最後に、ゆうきさんは、**資料7**と**資料8**をもとに、明治時代の不平等条約の改正につながったできごとを調べ、**資料9**のような図にまとめました。
- 資料9**の【5】に当てはまるものとして最もふさわしいものを、下の1～4の中から一つ選びましょう。

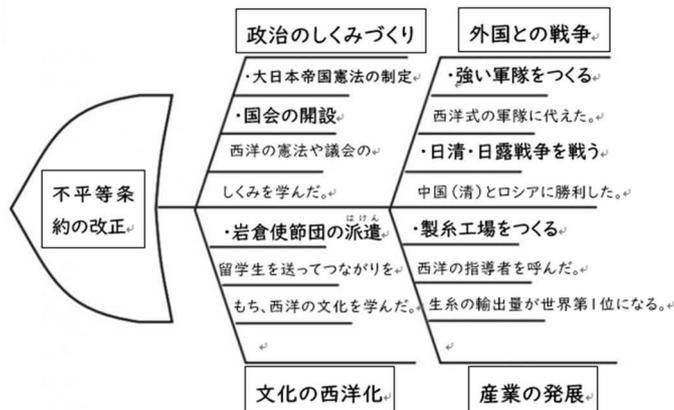
出題の趣旨

本問題は、「近代国家を目ざして」に関する問題である。本単元では、「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展などを手掛かりに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解すること」を目標としている。社会的事象を関連付けながら捉えられるよう、複数の資料を読み取り、考えをまとめていく活動における「思考ツール」の活用の仕方についての問題を出题している。

指導のポイント

○我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことに繋がった社会的事象について、複数の社会的事象を関連付けながらまとめ、説明できるようにする。

学習問題 不平等条約の改正は、どのようにして実現されたのかまとめよう



まとめ 日本は、憲法を制定して政治のしくみを整え、日清・日露戦争に勝利して、産業や科学を発展させて力をつけた。日本の成長が国際社会に認められ、条約改正に成功した。

「フィッシュボーン図」を用いた言語活動例

- ①学習問題を確認する。
- ②学習問題について考え、資料から読み取った情報を図にまとめる。
- ③図を活用しながら、課題に対してどのように考えたのかを説明する。
- ④学習問題(本時では「不平等条約の改正は、どのようにして実現されたのかまとめよう」)の答えに関連する主な社会的事象を、全体で確認する。
- ⑤学習のまとめを考える。

日々の授業改善のポイント

社会的事象の位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目させることにより、児童が「社会的な見方・考え方」を働かせて調べたり、考えたり、選択・判断したりできるようにすることが重要である。児童が思考ツールを活用することで、調べたことの整理や、社会的事象を比較や分類、関連付けしながら考察をすることがしやすくなる。

Ⅲ 中・中等教育学校 第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>世界と日本の地域構成</p>	<p>1</p>	<p>本問題は、中学校学習指導要領解説社会編で示されている「①世界の地域構成」で身に付けさせたい、「緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解すること。」の定着状況を確認する問題である。赤道、本初子午線、北半球、南半球などの意味を理解して、地球上の位置関係を表す際に用いることができることや、世界の地域構成の特色を大陸と海洋の分布、主な国の位置、緯度や経度等に着目して判断することができることを確認する問題を出題した。また、(5)は、デジタルの優位性を生かし、動画で地球全体を捉え、地球上における我が国と世界各地との位置関係を判断できることを確認する問題である。</p>
<p>世界の様々な地域</p>	<p>2</p>	<p>本問題は、場所や人間と自然環境との相互依存関係等に関わる視点に着目して、世界各地の人々の生活が営まれる場所の自然的条件と社会的条件を関連付けて、多面的・多角的に考察し、判断することを確認する問題である。(1)から(4)はグラフや雨温図、写真を地図上の位置と結び付けて生活や環境を判断することを確認する。(5)では、世界の人々の生活の多様性を理解し、世界の主な宗教の分布について理解していることを確認する問題を出題した。</p>
<p>歴史との対話 近世までの日本とアジア</p>	<p>3 4</p>	<p>本問題は略年表にある時代の順序を正しく把握し、各時代の出来事と時代背景を結び付けて理解しているかを確認する問題である。(1)は、現代につながる事実と照らし合わせて、時代を判断することを確認する問題である。また、(2)は指定する時代の特徴を理解し、代表する文化財を判断することができることを確認する問題である。さらに、(3)は時代の転換点となる出来事から時代を大観して、人の暮らしの変化を捉えることができるかを確認する問題を出題した。</p> <p>本問題の(1)、(2)は、令和4年度の小学校第6学年で出題された同一の問題である。正答率の推移から中学校で再学習をしたことによる、古代文明や古代の日本社会の様子に対する理解の定着を調査する目的がある。特に資料や地図、模式図などから適切に読み取ったり、時代の判別をしたりする歴史的な見方・考え方の到達度を確認する問題を出題した。(5)、(6)、(7)は、古代までの我が国の歴史の大きな流れを理解していること、各人物の活躍した時代をその特色を踏まえて理解しているかを確認する問題を出題した。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の区分			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率（％）	無解答率（％）	出題年度・調査名（「学年」）	正答率（％）	出題学年	正答率（％）
①	(1) 我が国の近隣にある中国や韓国の地球上の位置関係を理解している。	○			○			選	76.5	0.2	R4市【小6】	68.1		
	(2) 赤道の正しい位置を理解している。	○			○			選	60.5	0.2	R4市【中1】	69.4		
	(3) 正距方位図法で描かれた地図を適切に読み取り、六大陸と三大洋の位置関係を理解している。	○				○		選	48.0	0.4				
	(4) メルカトル図法の特徴を理解し、正距方位図法を正しく活用することができる。	○				○		選	30.5	0.3				
	(5) 地球儀を活用して南アメリカ大陸の反対側の場所を判断することができる。	○				○		選	77.1	0.3				
	(6) 日本とサンフランシスコの位置関係や時差を理解している。	○				○		選	53.6	0.4	R4市【中1】	57.9		
②	(1) 世界の主な国々の名称と位置について理解している。	○			○			選	81.7	0.2				
	(2) 地図上の位置から、雨温図を判断することができる。	○				○		選	57.4	0.3				
	(3) 冷帯気候の自然環境について写真を用いて判断することができる。	○				○		選	81.5	0.3				
	(4) イタリアの人々の生活を自然及び社会的条件などと関連付けて理解している。	○				○		選	84.0	0.2				
	(5) ヒンドゥー教の特色や信仰されている地域について理解をしている。	○				○		選	54.3	0.3				
③	(1) 時代の順序を正しく理解している。				○	○		短	69.5	10.6				
	(2) 時代を象徴する文化財を理解している。				○		○	選	51.0	0.4				
	(3) 時代を大観し、変化や特色を捉えている。				○		○	選	33.0	0.6				
④	(1) 縄文時代の生活を理解し、資料を選択できる。				○	○		選	69.0	0.3	R4市【小6】	72.2		
	(2) 弥生時代の人々の生活様式の変化を捉え、資料を参考に選択肢から正しく判断できる。				○		○	選	89.2	0.4	R4市【小6】	85.7		
	(3) ① 四大文明の位置を理解している。				○	○		短	67.1	11.0				
	(3) ② エジプト文明の特徴を理解している。				○	○		選	55.2	0.5				
	(4) 魏志倭人伝を適切に読み取って、当時の社会の様子を考察できる。				○		○	選	69.2	0.5				
	(5) ① 歴史の大きな流れを理解し、順に並べることができる。				○		○	選	42.2	0.7				
	(5) ② 聖徳太子が活躍した時代の特徴を理解している。				○	○		選	69.2	0.5				
	(5) ③ 聖武天皇の頃の文化財や時代の特色を理解し、選択できる。				○	○		選	38.5	0.7				
(5) ④ 中大兄皇子が活躍した時代の海外とのかかわりの様子を理解している。				○	○		選	34.3	1.1					

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。

※複数ある場合は、代表的なものを挙げている（同一問題には◎を付けている）。調査名は次の略称を用いている。「市」：さいたま市学習状況調査 「全国」：全国学力・学習状況調査 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。

※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。

※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。

★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特徴的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校社会 第1学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
①	(1) エ	令和4年度の小学校第6学年と同一問題を出題している。日本の近くにある中華人民共和国や大韓民国は、ユーラシア大陸の東部に位置している。
	(2) イ	赤道は、アフリカ大陸の中央部付近、インドネシア、南アメリカ大陸の北部を通過する。
	(3) ウ	地図2のように中心からの距離と方位が正しい地図は、大陸の形が歪んでしまうため、注意が必要である。通過順は、ユーラシア大陸・大西洋・南アメリカ大陸・南極大陸・オーストラリア大陸・太平洋となる。経線と緯線が直角に交わった地図と組み合わせて確認できるようにするとよい。
	(4) イ	最短距離を調べる場合は、地図2のような中心からの距離と方位が正しい地図を活用する。中心である東京とカイロを直線で結ぶと、カイロは東京から見て北西の方位にある。地図1を使って地図2の直線をたどると、最短距離が直線ではなく曲線となるため、正答はイとなる。
	(5) ウ	地球儀上に表された主な地点は、南アメリカ大陸である。動画を活用しながら、反対に位置する地点を探すとよい。ア…太平洋周辺、イ…アフリカ大陸・南アメリカ大陸周辺、ウ…オーストラリア大陸周辺、エ…アフリカ大陸・インド洋周辺となる。
	(6) エ	日本からサンフランシスコまでの時差は、ロンドンを経由して考える。東経135度+西経120度=255度離れている。経度15度で1時間の時差が生じるので、15で割ると、255÷15=17になり、17時間の時差があることがわかる。日本を基準にサンフランシスコの時間を求めるときは、時間を戻す。
②	(1) ウ	地図1のアはアメリカ合衆国、イはブラジル、ウはサウジアラビア、エはオーストラリアを示している。
	(2) イ	雨温図アは乾燥帯のニアメ、雨温図イは熱帯のアピア、雨温図ウは高山気候のクスコ、雨温図エは寒帯のイカルイトを示している。
	(3) エ	アは熱帯雨林気候、イはステップ気候、ウはツンドラ気候、エはイルクーツクが属する冷帯気候を示している。
	(4) ア	イタリアは地中海性気候に属している。地中海沿岸では、乾燥に強いオリーブなどの果実や小麦の生産が盛んである。
	(5) ウ	牛が神の使いとされていることやガンジス川での沐浴はヒンドゥー教の特徴である。地図上の地域Aはキリスト教、地域Bはイスラム教、地域Cはヒンドゥー教を示している。
③	(1) 古墳 (ひらがなでも可)	王や豪族の墓として古墳が盛んに造られた3世紀後半から6世紀末頃までを古墳時代と呼ぶ。古墳には、祭りの道具や武器、馬具などが納められた。
	(2) ア	イは平安時代に栄えた国風文化を代表する文化財。ウは江戸時代後期に栄えた化政文化を代表する文化財。エは明治初期、文明開化の頃の様子を描いた文化財。
	(3) カ	紀元1年から100年までを「1世紀」、101年から200年までを「2世紀」と表すため、1858年は19世紀となる。外国との取引が始まると、欧米諸国に対抗するために、欧米の文化が盛んに取り入れられた。文明開化は横浜などの外国人居留地から広がり、牛肉を食べる習慣が広がるなど、衣服や食生活の変化が始まった。
④	(1) ア	令和4年度の小学校第6学年と同一の問題を出題している。アの埴輪(はにわ)は古墳時代の資料となる。
	(2) エ	令和4年度の小学校第6学年と同一の問題を出題している。弥生時代には稲作が広がり、定住生活が始まった。「むら」や「くに」のリーダーとなる指導者が現れ、争いや身分の区別が生まれ始めた。
	(3) ① メソポタミア	世界の主な古代文明のうち、ナイル川周辺に生まれたエジプト文明、チグリス川とユーフラテス川周辺で栄えたメソポタミア文明、インダス川周辺のインダス文明、黄河と長江をきっかけとした中国文明は人類の歴史に少なからず影響を残した。
	(3) ② イ	エジプト文明では、ナイル川のはんらんを予測するために現在のカレンダーに近い太陽暦が作られた。さらに象形文字で記録することができるようになり、それまでであった古代の文明と一線を画す高度な文明に成長した。太陰暦やくさび形文字に関わりの深い古代文明はメソポタミア文明である。
	(4) イ	資料には、「一人の弟が国政を補佐している。」とあるため、ウは適切な説明ではないことがわかる。
	(5) A→D→B→C	(A) 聖徳太子は天皇を中心とした政治の仕組みを作ろうとし、(D) 中大兄皇子は中臣鎌足らとともに権力を天皇家に集中させる支配の仕組みを作る改革を行った。聖徳太子や中大兄皇子が活躍した時代を飛鳥時代という。(B) 聖武天皇は奈良時代、(C) 藤原道長は平安時代の人物である。
	(6) イ	地方が国ごとに分かれ、国府と呼ばれる役所が整備され始めたのは飛鳥時代の終わりごろから奈良時代にかけてであり、聖徳太子が活躍した後の時代となる。
	(7) ア	聖武天皇の活躍した時代に日本に伝わった螺鈿紫檀五弦琵琶を代表とする品々は聖武天皇が作らせた東大寺の正倉院に保管された。
(8) エ	7世紀半ばになると唐が朝鮮半島に進出し、倭(日本)と関わりが深かった百済も滅ぼされる。白村江の戦いで大敗したあと、中大兄皇子らはすぐに、百済人たちの知識を基に、西日本の各地に山城を築き、唐の侵攻に備えた。	

4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校1学年 社会 歴史と人々の生活

【特徴的な問題】

(4) さとしさんのクラスでは、中国の歴史書から古代の日本の様子を考える活動を行いました。次の資料5は中国の歴史書の一部です。資料5を読み、資料から考えられることについて最も適切な説明を、下のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

資料5 魏志倭人伝 (部分要約)

南に進むと邪馬台国に着く。ここは女王が都を置いている所である。…倭にはもともと男の王がいたが、その後国内が乱れたので一人の女子を王とした。名を卑弥呼といい、成人しているが夫はおらず、一人の弟が国政を補佐している。…卑弥呼が死んだとき、直径が100歩余りもある大きな墓を造った。

- ア 当時の中国は、邪馬台国の位置を把握していなかったと考えられる。
- イ 男の王では国内の乱れを収められないため、当時の人々は女子の王を立てた。
- ウ 卑弥呼は成人していて、一人で国の政治をとりしきっていたと考えられる。
- エ 卑弥呼は女子の王だったため、死んだとき男の王よりも小さい墓が造られた。

出題の趣旨

本問題は「中学校学習指導要領（平成29年告示）社会編」（歴史的分野）の目標に示されている「諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける」について確認する問題である。今回は中国の歴史資料である「魏志倭人伝」（部分要約）を読み取り、当時の日本の様子について考察するように設定した。

指導のポイント

○日頃の授業で歴史資料や実物教材を活用する

教科書や資料集に現代語訳されている資料等から、当時の人々の生活を考察する授業展開を多く取り入れることで、歴史的な見方・考え方の育成につながる。現代語訳されている資料の他にも、実物教材を実際に見て考えることや国立国会図書館、その他の博物館ホームページへアクセスし、一次資料から当時の人々の生活感覚や時代背景を考察することで、教科書を教える授業から主体的に学び、考える授業への改善につながると考えられる。

○単元を貫く学習課題を設定し、パフォーマンス課題を用いてまとめる単元計画を作成する

社会科の学習ではもちろん、歴史的分野の学習で特に留意したいのが、単元を貫く学習課題（問い）の設定である。授業では、資料の読み取りや年表の活用などを系統的に位置付けたい。

例えば、出題した「古代の日本」では、「古代の日本はどんな時代だろう。」という学習課題を立て、単元の中で、教科書等の文字資料から考察する時間、年表から東アジアとの関わりを考察する時間、歴史地図や実物や一次資料等から考察する時間を設定する。単元のまとめでは、古代の日本はどんな時代かを資料や年表に基づいてまとめ、プレゼンテーション等で、考察した結果やそこから得た自身の考えを他者に発表したり、議論したりすることで、互いに学び合う、主体的、対話的で深い学びにつながると考えられる。

IV 中・中等教育学校社会 第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

世界と日本の地域構成	1	<p>本問題は、令和4年度の中学校第2学年において課題がみられた「地球儀を基に適切な世界の地域構成を選ぶ」問題や、同調査において比較的正答率の高かった「地図上の0度の緯線（経線）を選ぶ」問題等を含む設問である。</p> <p>今回は、地球儀を基に世界の地域構成を問う問題、冷帯の気候の特色を理解し、適切な雨温図を選ぶ問題、地図上の本初子午線の位置を選ぶ問題などの、基本的な地理的事象に関する知識・技能をみる問題を出題した。</p>
世界の様々な地域	2	<p>本問題は、令和4年度の中学校第2学年において課題がみられた「複数の資料を基に、地理的項目について特色や課題を読み取る」問題を含んだ、世界の地域的特色に対する理解を確認する問題である。</p> <p>今回は、EU加盟国の推移とEU内での経済格差の関係について読み取る問題、ICT産業で活躍するインド人が多い理由について読み取る問題、ブラジルの農業の特徴について読み取る問題、白豪主義の内容とオセアニア州の移民の特徴について読み取る問題などの、身に付けたい知識・技能、思考力・判断力・表現力を確認する問題を出題した。</p>
日本の様々な地域	3	<p>本問題は、令和4年度の中学校第2学年において課題がみられた「各地域の気候の特色を示す雨温図を選ぶ」問題を含んだ、日本の地域的特色に対する理解を確認する問題である。G7広島サミットについて話題にした会話文中の言葉から、日本の地形や気候の特色、環境やエネルギーに関する課題、少子高齢化の課題、国内産業の特色、国内や日本と世界との通信網の整備状況について、想起し、我が国の国土や環境、産業について理解し、判断できるなどの身に付けたい知識・技能、思考力・判断力・表現力を確認する問題を出題した。</p>
歴史との対話 近世までの日本とアジア	4 5	<p>本問題は、令和4年度の中学校第2学年において課題がみられた「人物が活躍していた時代を資料から判断する」や、同調査において課題がみられた「時代を大観し、その特色を捉える」などを扱った各時代の政治や文化等に関する問題である。</p> <p>4人の人物カードを基に、それぞれが活躍した時代を時代背景や出来事と結び付けて判断する問題や、その歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力をみる問題、人物が活躍した年代の並び替えや、資料から同じ年代の文化財を選択する問題などを出題した。</p> <p>本問題は、令和4年度の中学校第2学年において課題が見られた「歴史の舞台となった場所」や「文化の特色と文化財の組み合わせ」、「歴史的な出来事の並び替え」に関する問題である。</p> <p>今回は、年表を活用し、基礎的・基本的な知識・技能を確認するために年表を読み取りながら時代の特色の理解を問う問題や西暦を世紀に直す問題、思考力・判断力・表現力を確認するために古代から近世までの出来事を並び替える問題などを出題した。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	学習指導要領の区分			評価の観点			問題形式	市		過去同一問題等		複数学年での出題	
		地理的環境と人々の生活	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	歴史と人々の生活	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		正答率(%)	無解答率(%)	出題年度・調査名【学年】	正答率(%)	出題学年	正答率(%)
①	(1) 地球儀を手掛かりに、対照点を判断することができる。	○			○			選	53.0	0.2	R4市【中2】	55.4		
	(2) 冷帯の気候の特色を理解し、資料から適切な雨温図を選ぶことができる。	○				○		選	48.2	0.2				
	(3) 緯線と経線が直角に交わっている地図上の本初子午線(0度の経線)の位置について理解している。	○				○		選	80.6	0.1				
②	(1) 資料を基にヨーロッパ州におけるEU加盟国の推移とEU内での経済格差の関係について読み取ることができる。	○				○		選	69.1	0.2				
	(2) 複数の資料を基に、IoT産業で活躍するインド人が多い理由について、誤った資料を選択することができる。	○					○	選	56.8	0.2				
	(3) 複数の資料を基にブラジルの農業の特徴について読み取ることができる。	○					○	選	62.3	0.2				
	(4) 資料から白豪主義の内容とオセアニア州の移民の特徴を読み取ることができる。	○					○	選	66.9	0.2				
③	(1) 日本は環太平洋造山帯に属しており、地震や火山の多い不安定な大地上に位置していることを理解している。	○					○	選	71.5	0.2				
	(2) フォッサ・マグナを境にして西南日本には東西の方向に、東北日本には南北の方向に背骨のように山脈が走っていることを理解している。	○					○	選	65.1	0.4				
	(3) 日本は南と北、太平洋側と日本海側、内陸部と臨海部と異なった特徴があり、いくつかに気候区分できることを理解している。	○					○	選	24.0	0.3	R4市【中2】	60.2		
	(4) 我が国が太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの開発に努めていることを理解している。	○					○	短	55.4	2.7				
	(5) 我が国が世界に類を見ない速さで少子化、高齢化に直面していることを人口ピラミッドを読み取ることができる。	○					○	選	82.7	0.5				
	(6) 日本の地域的特色を理解し、データと結び付けて判断することができる。	○					○	選	39.5	0.4				
	(7) 我が国の情報通信ネットワークの整備が進んでいることが理解できる。	○					○	選	85.5	0.3				
④	(1) 我が国の発展に尽くした歴史上の人物について時代の流れと合わせて判断することができる。					○	○	選	58.4	0.5				
	(2) 時代の特色を理解し、文化財を判断することができる。					○		○	選	47.9	0.4			
	(3) 我が国の大きな歴史の流れを理解するとともに、政治の展開を理解している。					○		○	選	37.5	0.4			
	(4) 聖徳太子の政治について理解している。					○	○		短	47.4	13.8			
	(5) 江戸時代の「幕府の政治改革」について人物と結びつけて理解している。					○		○	選	65.7	0.4			
⑤	(1) 中世の日本の特色について、理解している。					○	○		選	67.7	0.4	R4市【中2】	68.9	
	(2) 都や幕府が置かれた歴史的に重要な場所について理解している。					○	○		選	83.1	0.5			
	(3) 世紀と西暦の表し方について理解している。					○	○		短	54.0	4.3	R4市【中2】	52.6	
	(4) 室町文化の特色とその時代の代表的な文化財の組み合わせを正しく選ぶことができる。					○	○		選	41.7	0.6			
	(5) 古代から近世にかけて起きた出来事について年代順に並び替えることができる。					○		○	選	41.8	1.0			
	(6) 表やグラフを適切に読み取り、江戸時代の政治の特色について理解している。					○	○		選	53.9	0.9			

※「過去同一問題等」とは、本問題と同一あるいは類似の問題で過去の調査において出題された問題のことをいう。
 複数ある場合は、代表的なものを挙げている(同一問題には◎を付けている)。
 調査名は次の略称を用いている。「市」:さいたま市学習状況調査 「全国」:全国学力・学習状況調査
 なお、全国学力・学習状況調査の正答率は、市の正答率を示している。
 ※「選択式」とは、選択肢の中から解答を選ぶ問題。「短答式」とは、1つに限定される正答を短い語句または数値を用いて解答する問題。
 ※「複数学年での出題」とは、本調査において複数の学年で同一の問題等を出題している問題を指す。出題学年と正答率を示している。
 ★「設問番号」「設問のねらい」の網かけは、【特微的な問題と解説】で取り上げている問題であることを示している。

3 正答例【中・中等教育学校社会 第2学年】

設問番号	正答例	考え方 ワンポイントアドバイス これまでの学習のつながり 等
①	(1) イ	南アメリカ州のウルグアイ沖合の対蹠点（地球上の正反対にあたった地点）が日本（東京）となる。
	(2) ア	アはイルクーツク（ロシア）で冷帯、イはアピア（サモア）で熱帯、ウはイカルイト（カナダ）で寒帯、エはニアメ（ニジェール）で乾燥帯を示す。
	(3) C	本初子午線は、ロンドン（イギリス）の旧グリニッジ天文台を通る。
②	(1) エ	EC（ヨーロッパ共同体）は1967年にフランス、西ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの6カ国で発足。1993年にEU（ヨーロッパ連合）へと発展したが、西ヨーロッパ諸国との経済的格差等の理由により、東ヨーロッパ諸国のEU加盟は遅れた。
	(2) ア	会話文において、イは資料5のインドの紙幣が多言語で表記されていること、ウは資料3のコールセンターが昼夜が反対になる位置関係であること、エは資料4の輸出先がアメリカであることから読み取ることができる。
	(3) イ	資料6はセルバ（森林）の様子を、資料7の明るく写っている部分はおもに道路や開発された農地を、資料8は大型機械による大豆の収穫の様子を示している。資料9から大豆の生産量と農地面積は30年間で大幅に増加していることが読み取れる。
	(4) ウ	資料10から、1981年ではアジア州出身者の割合が11.6%であったが、2011年になると30.8%となり、増加率が最も高くなっている。
③	(1) ウ	地図1の読み取りを行いながら選択肢ア～エを確認すると、ア・イ・エは正しいことが分かる。地図1から、日本は太平洋を囲むように存在する環太平洋地域の変動帯に属していることが分かる。
	(2) ア	断面図アは、2つの山地の間に標高0m（瀬戸内海）があること、断面図イは出羽山地、奥羽山脈、北上高地があること、断面図ウは標高3000m級の山々が続く中央高地であることを示す。
	(3) エ	雨温図アは中央高地の気候の長野（長野県）を、雨温図イは太平洋側の気候の高知（高知県）を、雨温図ウは日本海側の気候の松江（島根県）を、雨温図エは瀬戸内の気候の広島（広島県）を示す。
	(4) 再生可能	図1から1980年代から徐々に割合が高くなりはじめており、近年エネルギー源として使用されるようになってきたこと、動画の太陽光発電所と風力発電所、地熱発電所からXに当てはまる語句が「再生可能」となる。
	(5) イーウーア	アは2025年を、イは1930年を、ウは1980年を示す。イは富士山型、ウはつりがね型、アはつぼ型で、国が発展途上国から先進工業国に推移する過程で人口ピラミッドがこの順番に変化していく。
	(6) ア	アは人口が最少で養殖業の生産量が最多であることから広島県を、イは人口と工業出荷額が3位で農業産出額が最少であることから福岡県を、ウは農業産出額が最多であることから北海道を、エは人口と工業出荷額が最多であることから愛知県を示している。
	(7) ウ	アは固定電話を、イはパソコンを、ウはスマートフォンを、エはタブレット型端末を示す。ウとエは平成21年から普及し始め、ウは急速に普及率が上昇して近年90%に達し、身近な通信機器となっている。
④	(1) C→A→B→D	カードCの聖徳太子は飛鳥時代、カードAの源頼朝は鎌倉時代、カードBの足利義満は室町時代、カードDの徳川吉宗は江戸時代の人物である。
	(2) ア	アは鎌倉時代、イは室町時代、ウは平安時代、エは安土桃山時代の文化財のため、源頼朝が活躍した時代の文化財はアとなる。
	(3) エ	アは奈良時代の朝廷の政策を説明している。イは平安時代の朝廷の政策を説明している。ウは江戸時代の仕組みや法について説明している。エは室町時代の様子を説明している。
	(4) 十七条	十七条の憲法の内容の特徴として仏教を大切にしたこと、天皇中心の政治を行おうとしたことを理解しておくことが大切である。
	(5) ア	アは徳川吉宗の改革、イは豊臣秀吉の改革、ウは水野忠邦の改革、エは織田信長の改革を表している。
⑤	(1) ウ	アは原始、イは古代、ウは中世、エは近世を表している。初めての武家政権が誕生した「中世」の時代の特色の理解を答える問題なのでウが正解となる。
	(2) イ	アは福岡県の太宰府、ウは神奈川県鎌倉、エは東京都の江戸を指している。平安京が置かれたのは現在の京都府のイとなる。
	(3) 13	西暦を世紀に変える問題。西暦100年ごとに区切る表し方で紀元1年から100年までが1世紀なので1221年は13世紀となる。
	(4) ア	文章aと資料1が室町時代の室町文化を表したものであるため、答えはアとなる。
	(5) B→D→C→A	カードAは江戸時代（17世紀後半ごろ）、カードBは平安時代（11世紀後半ごろ）、カードCは戦国時代（15世紀後半ごろ）、カードDは室町時代（14世紀ごろ）の出来事を表したものであるため、年代の古い順に並べ替えるとB→D→C→Aとなる。
	(6) エ	資料は江戸時代の参勤交代の目的について答える問題である。資料3からXは石高、資料4からYの大名であることが読み取れる。

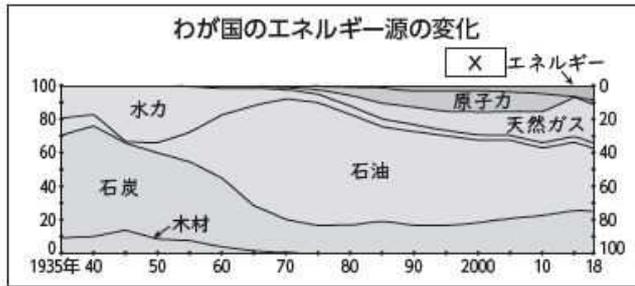
4 特徴的な問題と解説

中・中等教育学校第2学年 社会 地理的環境と人々の生活

【特徴的な問題】

(4) 【動画問題】 下線部④について、下の図の空欄 に当てはまる言葉を、動画を参考にして答えなさい。

図



出題の趣旨

本問題は、「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）社会編」（地理的分野）の内容に示されている、「日本の資源・エネルギーの利用の現状の理解」について確認する問題である。「わが国のエネルギー源の変化」についてのグラフから、必要な情報の読み取りができることを確認する。また、動画を参考に太陽光発電や風力発電等の再生可能エネルギーの開発に努力している、近年の我が国の状況を理解していることを確認するために出題した。

指導のポイント

○グラフの読み取り方

まずはグラフの題名、出典、縦軸や横軸が何を表しているかを確認させるとよい。本問題で示したような折れ線グラフは、経年変化を表す際に用いられることが多いため、横軸の年代を追って、各エネルギーの割合の変化を読み取ること、各エネルギー源の幅で変化の読み取りができることを指導する。また、このグラフで各エネルギー源の割合を読み取るには、以下のような計算が必要であることを指導する。

(例) 1935 年の各エネルギー源の割合算出方法

木材…10%

石炭…(石炭のグラフの数値) - (木材のグラフの数値) = 70% - 10% = 60%

石油…(石油のグラフの数値) - (石炭のグラフの数値 + 木材のグラフの数値) = 80% - 70% = 10%

水力…(水力のグラフの数値) - (石油のグラフの数値 + 石炭のグラフの数値 + 木材のグラフの数値) = 100% - 80% = 20%

○複数の資料の関連付け

本問題は、グラフと動画を関連付けた問題である。動画から実際の様子を確認することができ、グラフ中の X を想起しやすくなる。

令和5年度 さいたま市学習状況調査委員会・教科等部会名簿【社会】

【小学校校長会】 栄 小学校 校長 安島 俊之

【中学校長会】 上大久保中学校 校長 高久 正行

【小学校社会科部会】

部長 大谷場小学校 校長 山田 和宏
副部長 美園北小学校 教頭 小林孝太郎
部員 高砂小学校 教諭 堀 泰治
常盤小学校 教諭 佐藤 瑞貴
沼影小学校 教諭 八木澤耕太
大久保東小学校 教諭 上園勇輝也
神田小学校 教諭 松本 由佳
中島小学校 教諭 野津 貴史
東大成小学校 教諭 能登 恭平
下落合小学校 教諭 白尾明日香

【中学校社会科部会】

部長 美園南中学校 校長 内田 崇史
副部長 木崎中学校 教頭 高村 昌利
部員 本太中学校 教諭 本間 智美
大谷場中学校 教諭 松山 侑司
植竹中学校 教諭 小池 裕
馬宮中学校 教諭 太田 滉貴
宮前中学校 教諭 山田 昌吾
与野東中学校 教諭 林 飛竜
与野西中学校 教諭 大越 一毅
城北中学校 教諭 高野 隼

【担当】

教育研究所 主任指導主事 分須 広樹
指導1課 指導主事 青木 翔

教育研究所 主任指導主事 秋永 圭子
指導1課 主任指導主事 高見澤 悠

令和5年度 さいたま市学習状況調査 正答例等 社会

令和6年2月 発行

発行 さいたま市教育委員会

編集 さいたま市立教育研究所
